

報



會

會 岳 山 本 日

17

月 七 年 七 和 昭

金 峰 山

木暮理太郎

秩父山塊の金峰山は、私の古い山旅の靡げな記憶の中では、比較的につきりしてゐる方である。此山の名を知つたのは小學校の何級であつたか忘れたが、何でも暗射地圖で甲州の北境に栗の毬殻に似た大きな山の符號があつて、それが金峰山だと教へられたのが最初である。お寺を小學校に代用してゐた田舎のことではあるし、まだ「いろは」も録に知らないうちから「小學生徒心得」といふ漢文直譯體の本を讀ませたり、今でいへば尋常二年には既に十八史畧が教科書に用ひられた程、讀む事に重きを置いた昔の寺小屋風が残つてゐた時代のことであるから、地理の教授などは極めて簡單で、大抵この暗射地圖で山川都邑の名を讀記させてゐたのであつた。勿論金峰山がどんな山であるか、夫に就て少しも知る所の無い先生は、單に藏王權現の祭つてある高い山だと教へたのみに過ぎない。その藏王權現も神が佛かうるさく質問する生徒達に一喝を浴せたのみで、更に説明はして呉れなかつた。

四五年の後に東京に留學するやうになつて、或日上野の博物館を見物した。古代佛像の陳列室を丹念に品目だけ讀んで行くと、ふと藏王權現といふのが目に付いた。高さ一尺二三寸の銅像で、左の足で蓮花を踏みながら右の足を高く上げ、左の手は腰にあて、三鈷を持つた右の手を頭上に振りかざし、稍忿怒の相を帯びた半裸體のものである。之を見ると金峰山のことが想ひ出されて、次の機會には是非之に登りたいものだと思ひ出した。私の金峰登山は謂はゞ藏王權現の導きであるから、歸命寶蓮花を三唱して佛恩に感謝しなければならぬまい、秩父の山の中で、金峰山に深い執着を感じるのには、この爲であるかも知れない。

明治廿六年の八月上旬、妙義山を振り出しに淺間、蓼科の二山に登つて諏訪に出で、鹽尻峠を超えて木曾路に入り、御岳を上下し、引き返して甲府へ出た、これは武田信玄の舊蹟を訪ひたかつたからである。この頃の私は歴史上の好きな人物に甚しく興味を感じてゐたので、其古蹟には山と同じやうに心を惹かれたのであつた。此時も八ヶ岳に登つて南佐久に下り、修身節約といふ小學校の讀本で知つた有名な孝子龜松が狼を退治した内山峠を踰えて、下仁田へ出やうかとも考へたのであるが、日頃崇拜してゐた信玄熱が高かつたので、とうとう甲府へ來てしまつた。其代りかねて宿望の金峰山に登つて八ヶ岳の埋合せにしやうと思つてゐた。然し甲府へ來て勘定して見ると金峰山へ登れば、歸郷するの如何にしても二日は餘分にかゝることになる、これは財布が許さない。それで止むなく昇仙峽から御嶽の里宮に參詣したのみで、あとは脚に馬力をかけて、一日に十五六里宛飛ばして、四日半で歸宅した。財布をはたんと八圓貰つた旅費が二錢銅貨一枚しか残つてゐなかつた。

明くる廿七年の十月には、志賀重昂先生の日本風景論が出版されたことを新聞で知つた。私が漸く之を手に入れたのは翌廿八年の三月で、既に第三版であつた。この本が當時の登山者仲間にも甚大の影響を及ぼしたことは、日本山岳會の設立される迄知らずにゐたが、兎に角有頂天になつて讀み耽つてゐた私がこの本から受けた刺激は頗る強いものであつた。らしく、破天荒な山旅の計畫を發表して全く家人を驚かした、即ち針木峠を踰えて立山に登り、引返して槍ヶ岳から乗鞍、御岳、木曾駒、甲斐駒及び金峰山と順序に登攀し、十文字峠を経て秩父盆地に入り、最後に武甲山に登つて熊谷に出やうといふのである。有り難いことには登山の危険といふやうな事を少しも知らない家人は、笑ひながら私の請を許して財布の中へ二十圓入れて呉れた。一泊十七錢から二十五錢中食五錢から十錢、草鞋二錢、雜費五錢、合せて三十錢乃至四十錢で旅の一日が過ぎる、二十圓あれば僅に四十日は歩けるので大威張だ。

私の山旅は槍ヶ岳を除いて豫定通り順調に進んだ。甲斐駒を下る時には、屏風岩の小屋の主人が食糧の買入れに下山したので、朝食に握飯一つを食へたきりで、ヒヨロ／＼になつて臺ヶ原に辿り着いた。翌日は昨日の疲れと、蘆崎から睦澤へ出る道を誤つて大迂廻した爲とで、御嶽へ着いたのは午後二時頃であつた。もう御室まで日のある中には行けないと聞いたので、まだ早いが大黒屋に草鞋を脱いだ。

明くれば八月二十日、十人餘りの講中と同行するのが嫌さに、夜の白むのを待ちかねて出發する。槍ヶ岳の長い登りを終へて、唐松峠の薄暗い森林にさしかゝると一しきり驟雨が襲つて來た。暢氣に蝙蝠傘をさして御室に着いたのは九時頃であつたらう、小屋の主人は蝙蝠傘をさして來た人はこれで二度目だと言つて珍しがつてゐた。

山 岳 原 稿 締 切 日

山岳第二十七年三號の原稿は、來る九月末日を以て締切りと致します。

會員諸氏の御執筆御寄稿を切に希望しまたお願い申上げる次第であります。編輯係 敬白

御室から登る五十町の峻坂は、岩といひ樹といひ、如何にも山らしい感じを與へるのは嬉しい。絶頂にはまだ測量の櫓は無く、五丈石には粗末な梯子が架けてあつた。私はいきなり五丈石に攀ち登つて、暫く四方の眺望を恣にし、そして岩を下りると岩高蘭や菩提のふつくりした青い菌に身を埋めて、ごろりと寝轉んだまゝ、長い間空を見詰めてゐた。此時初めてしみ／＼と山を味ふことを體得したのであつた。



會務報告

七月七日定例理事會

出席 小島、高野、高頭、冠、伊藤

角田、茨木、藤島、島山、神谷、田中、松方、渡邊。委任 横。

一、本年度の山日記發行頗る良好、初刊以來三ヶ年にして先づ讀者層の確立を見たるもの、如しとの報告あり。

一、山小屋借地願に對する營林署の回答未だ來らず。角田理事を煩はして東京營林局、松本營林署の兩者の意向を確かむることに決せり

一、本年八月、所藏圖書の整理を圖書係に於て斷行する旨報告あり。

一、八月中圖書室開室を毎週月水金の夜間(午後五時より)のみとするに決せり。八月中理事當番廢止

一、寫真集「高山深谷」編輯の方針につき報告あり。(別項参照)

一、山岳廿七年二號の進捗状況につき報告あり、内容は別項の通り。

刊行は八月中旬となるべし。

一、財團法人申請は六月末現在の財産目錄により手續を執る筈なり。

一、會員名簿は今後「山岳」毎年一

號に添付することゝす。

一、本會設立より明治三十九年末までに入會の會員は「創期會員」として退會後も名簿上別に録し置くことに決せり。

一、八月定例理事會は休會す。

以上

退會者

昭和七年六月二十七日付

(九四五) 大阪市 西谷 逸郎

新着圖書

山上雷鳥著 アルプス傳説集

黒百合社

黒田初子著 婦人の山とスキー

大村書店

菅沼達太郎著 山岳服裝近代色

大村書店

田部重治著 山と溪谷(普及版)

第一書房

小島鳥水著 氷河と萬年雪の山

梓書房

宇野唐變木著 中山の奥 O.K.T

山と溪谷 第十四號 山と溪谷社

山小屋 第八號 朋文堂

一等水準點檢測成果彙録

陸地測量部

地學雜誌總目錄自第一卷至第五百卷

東京地學協會

地質調査所報告自一〇至一一二

同上

東京地學協會沿革誌附出版物目錄

同上

地質圖 静岡、伏見、松山

同上

ツリスト 二十年六、七號

ジャパン・ツリストストビューロー

木曾駒に友をたづねて

大阪工大山岳部

日本登高會々報 第九、一〇號

山行案内 七年六、七號

昭和マウンテンクラブ

山 第二八、二九號 横濱山岳會

旅 十二年六、七月號

アルカウ趣味 十九年六、七號

神戶アユモウ會々報 第二四、二五號

東京登山深流會々報 第六、七號

霧の旅 第三九號

圈谷 第三號

吉野群山及熊野地方の風景探勝案内

吉野山岳會

立教大學山岳部々報 第四號

關西學生山岳聯盟報告 第三號

登山記錄 一九三一一九三二

八高山校會

武藏山岳會々報 六、七、八月號

踏跡 第七號

東京登山旅行會

ベルク 第八、九號

岡山山岳會

藏前山岳部々報 第四號

管見錄 七九號

大阪管見社

旅行 第七五、七六號

東京旅行クラブ

東京曉山岳會々報 第二、三、四、五號

東京市役所體育會山岳部パンフレット 第二號

廣島山岳會々報 第一四、一五號

山旅 第六、七號

山旅山岳會

山幸 第九、一十一號

阪神山岳會

ルックサック俱樂部々報 第七號

山彦 第七號

東京山彦山岳會

明峯山岳會月報 七月號

臺灣山岳會彙報 第七號

The Alpine Journal
Vol. XLIV No. 244 May 1932.
The Finnacle Club Journal No. 4. 1929-1931.

La Montagne C. A. F. No. 240

Mai 1932.

Club Alpino Italiano No. 4 Apr. 1932.

Natural History

Vol. XXXII No. 3 May-June 1932.

Bulletin Appalachian Mountain

Club Vol. XXV No. 9 June 1932.

Trail and Timberline

Nature Protection Number No. 164 June 1932.

The Prairie Club Bulletin No. 217

June 1932.

The Mountaineer.

Vol. XXIV No. 7 June 1932.

Die Alpen Les Alpes Le Alpi VIII

No. 6 Juni 1932.

Bulleti Del Centre Excursionista

De La Comarca De Bages

XXVIII No. 154 1932.

會員寄贈圖書

臺灣高山地域に於ける二三の地形學的觀察

臺灣產高山蝶 第一一第五

篠原良雄編 昇仙峽詩文抄

以上篠原良雄氏

北大スキー部々報 第一號

以上大野精七氏

地震 第四卷五號

震災豫防調査會報告書總目錄

以上木村鎮吉氏

購入圖書

東京天文臺編纂

理科年表(昭和七年度)

小山 博編

山の犧牲 山岳登攀心得 大正

五年版

小島鳥水著

氷河と万年雪の山(特刷版)

Fridtjof Nansen's:—

Farthest North Vol. 2 1897.

Capt. Robert F. Scott:—

The Voyage of the Discovery

Vol. 2 1907.

Filippo De Filippi:—

Himalaya Karakoram and

Eastern Turkestan 1913—1914.

圖書基金申込會員氏名

本誌第十五號に報告したる以後の

申込者左の通りである。

東京 茨木猪之吉(二口)

同 藤田 國馨(二口)

同 横 有恒(一口)

大阪 中原繁之助(一口)

前回發表の分を加算すれば現在三

十五名四十五口である。

關西小集會

北る七月四日午後七時より大阪市

北區堂ビル九階清交社で關西小集會

を開催し左記の講演があつた。

獨逸山岳界の近情 高橋健治氏

登山と飛行機の利用・今春マウ

ント・マツキンレーの登攀に

關して 藤木九三氏

來會者會員三十二名其他五十一名

の多數に達し頗る盛會であつた。

會費未納の方へ

「山岳」第二十七年第二號も近日

刊行、會員各位の御手許に届くこと

になります。本年度會費未納の方々

は此際至急左記へ御拂込下さい。

東京市芝區高輪南町三〇

日本山岳會・振替東京四八二九番

山岳第二十七年第二號廣告

本欄

千島紀行

朝鮮咸北の山々

尖山單獨行

雜錄

ノールウエーの秋の山水

白馬岳正面の尾根登攀

冬の白山

春の白山

春の大笠山と笈岳

天草島の山々

荒澤岳より魚沼駒ヶ岳

富士大澤口冬季登山

北海道の夏の川

机上談山

新設山小屋、遭難報告、新刊紹介

其他數項

附錄

東北地方の山岳文献索引

佐々 保雄

八木澤行正

約二百頁 寫眞十數葉

屏高山植物(石崎光瑞筆)

定價貳圓 發行八月上旬

八月の圖書室

八月中は歸省される人や、山へ行

かれる人が多いので、自然圖書室は

閑散に成り勝ちです。それで八月中

に限り毎週月水金の夜間だけ(五時

より)開室することに致しました。

御涼みがてら多數の方々の御來室を

希望致します。



圖書紹介

アルプス傳説集 山上雷鳥編著

黒百合社刊行 定價壹圓貳拾錢

ヨーロッパ・アルプスを中心とす

る山村僻地に今なほ語り傳へられて

ゐる傳説を蒐集したものである。原

著は主として“WONDER TALES

OF OLD TYROL”。

内容は「北方の龍」グエニスの奇

術師「墓の怪異」梟の魔法「ワツツ

山上の鬼」ソルシュタインの妖魔」

の六編よりなつてゐる。

その題の示す通りチロル地方を主

とした神祕、怪異の傳説で、山に感

興を持つ人は勿論、一般の讀者とし

ても興味あるものである。(S・T)

立教大學山岳部々報 第四號

昭和七年六月發行 頒價壹圓

昨年積雪期の後立山に華々しい活

躍を試みた立教は今年はその主力を

積雪期の南アルプスに轉じ、その報

告の大部分がこの部報に載せられて

ある。即ち「甲州側より惡澤岳・赤

石岳」「大井川東俣と間ノ岳・農鳥岳・

鹽見岳」「大井川西俣より鹽見・惡澤

岳」「遠山川より聖・上河内岳」等が

それで、冬春の大井川、及び遠山川

側よりの登山は恐らく之等が最初の

ものであらう。

部長辻莊一氏は“ALPINISTS-

CHE ORTHODOXIE”と題して同

氏が嘗て發表された正統的登山意

識は絶対に攻撃的でなければならぬ

といふ考へから一歩進んで同一人が

ある。

婦人の山とスキー 黒田初子著

昭和七年六月大村書店刊行 八〇

婦人登山界に其人ありと知られた

黒田初子氏の單獨著である。

「登山計畫の立て方」登山の準備

「色々の注意」後仕末「隨筆」紀行

等に編を分ち、女らしい細かい心使

ひが表はれてゐる。婦人の爲の書物

は最初であるから山に経験のある友

を持たない婦人登山家には、參考

となるであらう。(S・T)

山岳寫眞募集

曾つて本會の編輯發行した寫眞帳

「高山深谷」の傳統を復活し、今日

の登山・撮影・印刷夫々の技術を動員

することにより、新しい、代表的な

山岳寫眞帳を作る計畫がたてられ、

下記の者が委員として、萬事の責任

を負ふことになりました。收録する

寫眞は委員心當りの方々に對しては

直接に貸與方を御願ひすることに努

めますが、廣く會員各位が此の計畫

の成功のために、舍心の作を寄せら

れんことを切望して止みません。

寫眞帳には日本の山の特色のよく

現れたもの約五十枚を收録の豫定

御送附の印畫はなるべく密着焼付

但し大さ隨意、既發表にても差支あ

りません、繪は必ず御返しします。

印畫送付その他萬事は左記へ

芝琴平町一不二屋ビル日本山岳會

「高山深谷」編輯係と表記の事

編輯委員 高野鷹藏 鳥山悌成

編輯委員 藤島敏男 松方三郎

茨木猪之吉

峰「春の鹽見岳」等珍らしいものが



山の消息

戸隠と飯縄山

六月十一日午前十時半柏原下車、
二の倉から黒姫、飯縄組合谷を午後
五時戸隠中社泊。

十二日朝七時中社發奥社の背後から
十時二〇分八方尾に登る、今日は
山開の第三目で、日曜日のこと、
て四十名程の登山者があつた。蟻ノ
戸渡り、劔ノ又渡りを危な氣に登つ
て來るのが手にとるやうに見へる。
一不動に行く尾根にミネザクラが一
株咲き残つてゐた。午後三時一不動
の澤を牧場に降り五時半再び中社泊
十三日朝八時半飯縄に登る、裾
野は落葉松と熊笹が茂る、十時頃之
を切抜けて十一時頃上の祠に著く。
白衣の行者と男女十餘名居れり。一
九一七米の三角點は祠の稍東北の頭
に在り、眼下の飯縄原には、大座、
論田等八個の池が縁の中に光かる。
空には北アルプスの連峰が、雲を抜
いて輝いてゐた。午後一時四〇分一
ノ島居脇の茶屋に降り、坦々たる長
野街道を荒安の團子茶屋に到り、六
時半善光寺著。

小杉 源吉

狩小屋澤から至佛山

五月二十七日正午過湯槍曾から上
ノ原スキー場を経て湯之小屋泊五時
間を要せり。

二十八日朝六時半發、十時狩小屋
澤著、至佛西側に登る。澤には瀧と
雪溪あり、植木採り三、四名に逢ふ
午後三時頂上著、小雨華氏四〇度、降
りは殆んど雪續きで、四時半山ノ鼻
小屋に著、原は瀧水多くミヅバセウ
の花盛りなり。宿泊名簿によると本
年一月以降三月廿六日を最終として
十四名であつた。

二十九日朝七時半發、鳩待越へ笠
科川に沿ふて正午土出にいで鎌田よ
り自動車にて沼田著。 小杉源吉

臺灣だより

東臺灣調査後最近完成された關山
越道路を通じて當地に出ました。御
承知の様にこの道路は、臺灣で唯一
の未歸順蕃ヲホアセ一族等制壓の目
的につけられたものです。峠の臺東
側は地形圖もフランクであります。

去る七日臺東廳の里流(リラン)發
カイモス駐在所(一八七〇米)泊、八
日關山駐在所(二八五〇米)泊、九日
州廳界中央山脈を横切り(峠頂上二
九三〇米)附近の三〇〇〇米の無名
ピークに登攀、高雄州下の中ノ關駐
在所(二九七米)泊、十日ラボラン
駐在所(八八一八米)泊、十一日排剪(五
一五米)泊、十二日當地著。關山の
山はアヌ族の名稱をマバオックと
申します。また此附近一帯は、臺灣
中でも最も荒々しい山容を呈してゐ

ます。

六月十二日 臺灣高雄州、屏東郡
六龜にて 沼井鐵太郎

朝鮮・金剛山より

急に思ひ立つて十九日の夜東京出
發、關西で所要を果し、朝鮮に渡り
二十五日金剛山長安寺に來着、快晴
に恵まれて愉快に毘盧峰越へをして
昨日當地に参りました。二三日滞在
の上尙よく見て歩く積りでです。

六月廿七日 朝鮮・外金剛・溫井里ホテル

初夏の奥上州

塚本 閑治

會報の出來上りを見ずに山へ來て
仕舞ました。谷川岳へ二度、天神峠
よりと萬太郎谷から登つてみました
快晴の日と、霧の中を。

木曾駒と至佛山と、飯縄山にある
と聞くエーアルワイズ(ヒメウスユ
キサウ)が花盛りでした。驚く程澤
山あります。特に西黒澤の尾根が多
いのです。もう一つ、白花のイワカ
ガミを數多く見ました。これも珍ら
しいものと思ひます。

萬太郎谷は美しい谷です。三ノ瀧
の直ぐ上部で一泊、翌日の十時頃谷
川の頂上に出ました。三ノ瀧の上部
から山頂までは、草原が多く、岩峯
を仰ぎ、恰も黒部の上流に似てゐま
す。三條の瀧は、一、二、三ノ瀧と稱
し、越後でも有名なものですが、皆
百尺は越えてゐます。特に三ノ瀧は
大きく、三百尺位はあつたかと思ひ
ます。右岸を絡みましたが相當な惡

場でした。

越後土樽村の古老の話によれば萬
太郎谷はその昔、谷川岳の淺間神社
へ行く参拜道であつたやうです。現
在も萬太郎谷の出合には數百年を経
た杉の古木が、小祠を圍んでゐます。

お駒ヶ岳ソエゴシ尾根等の谷に付け
られた名稱は、何か關係のある事
でせう。

今日は毛度澤の小屋へ行き、赤谷
川に入る豫定です。

六月廿八日 湯槍曾にて 角田 吉夫

兩神山

五月上旬兩神山へ行きました。三
峯口より中津川溪谷に入りました、
新緑は萌えるやうでしたが、溪谷は
思つたより小さく水もすくなく聊か
失望しました。初めは中津川部落の
幸島方に一泊。この地の氣風は醇朴
です。

二日目金山を経て八丁峠下から兩
神山に登る。天氣晴朗で北アルプス
を初め奥秩父の連山、上信上越の諸
山が殘雪に輝いて望まれました。兩
神社に参拜し日向大谷より小鹿野
を経て秩父大宮に出で歸京しました
兩神山は雲取山や武甲山よりも望む
だときは男性的であるが、實際登つ
てみると寧ろのびやかに遊び歩く山
のやうに感じられました。

自動車開通

越中立山山麓の千垣から藤橋まで
昭和七年五月 吉田 竹志

の道路を改修し、今夏から乗合自動
車が通ふことになった。山麓のあつ
い道を少しでも歩かずに済むことは
登山者にとつて有難い。

上越の山案内科金

上越國境の山々を歩く登山者のた
め、今夏から上州側湯槍曾、谷川、
藤原、三國村、越後側土橋村、上田
村とも協定して七月一日より案内料
金一日壹圓五拾錢に定めることにな
つた。トンネル一つで余り差違のあ
るのは面白くない。今次の料金改定
は登山者にとつて吉報である。

上越の山に新道

上州湯槍曾から湯ノ藏山を経て天
神峠へ行く新道が開鑿された。谷川
岳へ登る道がまた一つふえた譯だ。
日歸り黨に喜ばれるだらう。

昭和醫事山岳無料診療所

昭和醫事専門學校山岳部では、本
年夏より北アルプス中房温泉に、山
岳無料診療所及び白馬岳頂上に其出張
所を開設し、外傷は勿論一切の疾病
を治療する傍ら、其衛生狀態を考究
し、一般の登山者並びにその家族の
憂ひを一掃しやうとする計劃を發表
された。之は吾山岳界にとつて洵に
有意義な企てであつて、同所に對し
衷心より敬意を表すると共に、此事
業の永續されん事を切望して已まぬ
次第である。

東京山草會を観る

近頃都下一部の人達の間に、山草の鑑賞と培養が流行して来たことは面白い。そうした趣味の普及を目的とする東京山草會が設立せられ、その第四回の展覽會が去る六月十一日銀座の千足屋で開かれたので觀に行つて来た。

出品點數百四五十種の多きに上り其中には都會人の容易に見る能はざる、高山植物の珍品もあつて、而も悉く花盛りのところを觀せて貰ひ、遙かに高山のお花畑を聯想して、非常に嬉しかつた。その主なるものを擧ぐれば、

エーデルワイス(スキス産)、カンボウナデシコ(岡部氏) 岩鏡(田坂氏) シモツケ、岩梅、岩タバコ(木村氏) 岩高蘭、インソツ、デ(木下氏) ミネツワウ(大榮氏) 鳥頂蘭(小林氏) ミヤマリンドウ、ヒメシヤクナゲ(正木氏) シラタマノキ(近藤氏) 高嶺撫子、岩南天(乃部氏) 鳳凰シヤウジン、駒草、千島桔梗(龍山氏) コメツ、チ其他寄植(木村氏) 白樺ツルコケモ、の寄植(塚田氏) コケサンゴ、ワタスケ(鈴木氏) イカリ草、紅花イブキヤコウ草(林伯) 白花タカネナデシコ、エンネギ(布川氏) 他各種。 神谷 恭

「山岳」合本用ケース

- 1 上質バックラム(灰青色)
- 2 背、山岳第何年、西暦を押す。
- 3 ヒラは両面に會章を押す。
- 4 前後見返し英木畫伯筆。

5 一年分合本用ケースのみを所用の場合。五十錢(送料本會負擔)

6 雜誌を本會へ送付され製本して返送する場合。ケース・製本料共一圓(返送料本會負擔)

7 申込及び「山岳」送付先は芝區琴平町一・不二屋ビル日本山岳會
8 送金は振替又は小爲替或は郵券(二錢切手)代用に願ひます。

圖書係

會報編込用表紙

- 1 ヒラは濃綠色レザ。會章押捺
- 2 背は濃紺色クロス。
- 3 申込は芝區琴平町一不二屋ビル代金は四十錢(送料本會負擔)
- 4 會報係

圖書基金に就てのお願い

本書の圖書基金が昨年度に於て四十五名五十九口の御申込を得ましたことは本會特に圖書係の深く感謝する所であります。

右の圖書基金を以て助からぬ和洋山岳圖書を購入し、各國山岳會誌及び本邦登山團體の會報を合本整理することが出来たのであります。

然しながら圖書室の内容を充實せしむるにはまだ、多くの費用と時間と努力とを必要とします。本會の圖書室を勉くとも本邦に於いて最も完備せる山岳圖書館たらしむるため此の上とも會員諸氏の御後援をお願い致したいと思ひます。

從來圖書基金の御出捐を願つてゐました方々へは別に書狀を差上げる

ことに致しますが、この會報上を以て尙篤志の會員諸氏に圖書基金の御拠出をお願い致す次第であります。
昭和七年三月 圖書係 (松方・伊藤)

追而御申込の形式は左の通りであります。

日本山岳會圖書基金申込書

一、昭和七年度圖書基金何口何圓也 (但し一口年額金五圓)

右申込候 貴 名

日本山岳會御中

御申込書丈けを先きに頂戴して後日御拂込下さつても結構で御座います。

編輯後記

本號の編輯日が切迫してゐながら第一頁の原稿が無いので、木暮さんに御無理を願つた處、早速御快諾を得たことは大きな欣びであつた。

八月は會報を休刊することになつた。其間夏山のニュースをどしどし送つて頂きたい。第一頁へも可成多數の方々寄稿され度い。そうして次號は休んだ理合せに十二頁位のものを出せるやうにして頂き度い。

(神谷)

昭和七年七月廿五日印刷
昭和七年七月廿七日發行

發行所 東京市芝區琴平町一不二屋ビル

發行所 日本山岳會

會報編輯所

山岳關係圖書販賣目録(三)

吉田 東伍編	大日本地名辭書	全五冊	五・〇〇
佐藤傳藏	山崎直方共編	大日本地誌	全十冊 四・〇〇
帝大地理學教	室編	地理學評論自一卷	全八十三冊 三〇・〇〇
東京地學協會	地質調查新刊	大日本帝國地質圖(五百萬分一)	三・五〇
芳賀 矢一校	大日本名所圖會	明治三十二年刊	四・〇〇
田山 花袋編	新撰名勝地誌	全二〇冊	五・五〇
高木 利太編	日本地誌目錄	(正價)	八・〇〇
日本山岳會編	山岳 自一卷至二十四卷		五・〇〇
小島 烏水著	日本アルプス全四冊極美本		三三・〇〇
小島 烏水著	雲 表		四・〇〇
小島 烏水著	扇頭小景		三・〇〇
小島 烏水著	山水無盡藏		三・〇〇
河東碧梧著	日本の山水(山岳編)縮刷版		八・〇〇
鹿子木員信著	アルペン行		三・〇〇
高頭 武編	日本山嶽志		三八・〇〇
横 有恒著	山 行		六・五〇
志村 烏嶺著	千山萬岳		二・〇〇
中川源三郎著	日本氣候學		三・五〇
內務省編	日本鐵泉誌	全三冊	六・〇〇
內務省編	全國溫泉鐵泉ニ關スル調査		三八・〇〇
赤松 義知著	利根川圖誌	全六冊	六・五〇
三好 學共	日本高山植物圖譜	全二冊	二二・〇〇
牧野富太郎著	朝鮮植物名彙		八・五〇
朝鮮總督府編	臺灣植物總目錄		三・五〇
臺灣總督府編	臺灣高山植物誌	英文	一五・〇〇
早田 文藏著	富士山植物誌		一・五〇
梅村甚太郎著	富士山鳥類一斑		一・五〇
黑田 長禮著	日本の植物界		六・〇〇
三好 學著	日本蝶類圖說		八・五〇
宮嶋幹之助著			

▲山岳研究圖書は豊富に種々取揃へて居ります▲

▲古書御拂下の際には是非嚴松堂に御用命下さい▲

▲嚴松堂書店 電話九段代表四五五六番▲

山岳寫眞繪葉書

- 第一輯 山日記挿入寫眞 武田久吉博士撮影
 第二輯 雪の尾瀬 武田久吉博士撮影
 第三輯 春の白馬 武田久吉博士撮影
 第四輯 上越國境(一) 武田久吉博士撮影
 第五輯 初夏の尾瀬 武田久吉博士撮影
 第六輯 上越國境(二) 武田久吉博士撮影
 角田吉夫氏撮影
- (以下續刊)

各八枚袋入 價各貳拾錢 送料各二錢
 (郵券拂込可)

山日記

版年二三九一
 編會岳山本日

來出刷三第

(錢六料送) 圓壹

四町賀甲北區田神市京東

房書梓 あづき

番四四六八七京東替振
 番五七七二 田神 話電

各大學山岳部報告は弊書房でも御取
 次いたします、書目は御申越次第進
 呈します(但二錢切手御封入の事)

登山用行糧の御披露

携帯行糧 ソーダ ビスケット

(壹罐 壹圓五拾錢 一・二〇〇珣入)

このソーダ ビスケットの特長は品質の
 優良、滋養の豊富、風味の良好、價格の
 低廉、容器の簡素等で、發賣以來日もま
 だ浅い今日、既に理想的の逸品として推
 奨されて居ります。

いよくヒッケルに、リュックサックに、
 登山姿勇ましい、男性的のシーズンが参
 りました、何卒探勝御企圖の際、ソーダ
 ビスケットの御用命を願ひます。

市内外著名の菓子舗、食料品店、百貨店で販賣致
 します。

東京 東品 東洋製菓株式會社